

2018.10.19
発行

No.
41

まひかの保育



発行者/愛媛県保育協議会
会長/合田 史宣
作成者/総務広報部会
編集責任者/宇都宮 恵子

発行所/愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内

収穫したと〜〜



おおきくなーれ

おいしくなーれ

松丸保育園



よいしょっ!!

寮川保育園



ボコッ



新居浜保育園



ピーマンマン参上

平和とは

〜被災地に想いを寄せて〜

愛媛県保育協議会 会長 合田 史宣



初めに、このたびの西日本豪雨災害で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と安心した日常への回復をお祈りしております。

また、愛媛県保育協議会会員の皆様におかれましては、今一度、災害への備えをご確認していただきたいと思います。

このような災害を経験して思ふのは、「平和とは何か」ということです。これまで平和は、戦争の反対語のような扱いを受けてきたくらいがあります。

しかし、実はそうではなくて、安心した毎日を、普通に送ることのできる毎日こそが、平和なのだと改めて思い知らされました。

私たち保育者が、普通の生活を送れていることが、子どもにとって平和である第一歩であり、子どもがいて、保護者がいて、保育者がいて、それぞれが子どもの未来を共に語り合うことのできる日常こそが、平和な世界だと思えます。しかし、この生活はあまりにも当たり前になりすぎて、時に忘れがちになります。子どものために保育者と保護者がどんな会話をしているのか、ゆつくり考えてみるのも大事なことでしょう。

私たち保育者は、子どもにとって「保育環境」の一部です。私たちの平和な生活が保障されてこそ、子どもたちの平和な生活が保障されます。愛媛県保育協議会は、会員の皆様の環境を整備するとともに、子どもたちの幸せな未来のために、これからも力を尽くしていきたいと思っておりますので、お力添えをよろしく願います。

平成30年度 私たちの取組み

本会では、1年間を通して様々な研修等を実施しています。ここでは、各研修等の主な内容や参加された会員の皆様の感想等をご紹介します。

教育・保育施設初級職員研修会 5月22日(火)～23日(水) ひめぎんホール

○講義Ⅰ「保育士とは」

つごいの広場ぐーちよきぱー 代表 越智 ミドリ氏

○講義Ⅱ「『新保育所保育指針』改定のポイントと幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿とは？」

松山東雲女子大学 人文科学部心理こども学科准教授 泉 浩徳氏

○講義Ⅲ「動物が教えてくれたこと」

愛媛県立とべ動物園 園長 田村 千明氏

○講義Ⅳ・実技「絵本・おはなしと遊ぼう」

～参加型絵本・パネルシアター・エプロンシアターの実演～
おはなし屋えつちゃん 絵本コーディネーター 武知 悦子氏

初級職員研修会に参加して

(北宇和郡)松丸保育園 三好 萌

今回の研修会では、理論と実践の両面から保育に関する幅広い学びを得ることができました。

1日目は、越智先生から、子ども・保護者・同僚や先輩といった3つの視点から見て、嬉しい保育士とはどのような存在なのかということ、現場でのお話も交えて教えていただきました。泉先生からは、新保育所保育指針の改定のポイントを教えてくださいました。事例を出して考えることで、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿は、1つの場面でも様々な姿が見てとれることを感じ、多角的な視点で子どもの姿を見ていくことの大切さを再認識しました。

2日目は、田村先生から、動物に関する知識やウサギやモルモットの抱き方、動物が苦手な子への配慮等について教えていただきました。武知先生からは、読み聞かせやパネルシアターの実演と絵本の読み方、見せ方、子どもとの楽しみ方を学びました。動物の秘密や子どもたちと一緒に読んでみたい絵本等、保育の中で実践するのが楽しみにしました。2日間の研修では、保育士には高い専門性が必要になることや大きな責任が伴うことはもちろん、保育士という仕事の楽しさ・素晴らしさも学ぶことができました。今回学んだことを生かし、誰にとっても嬉しい保育士になれるよう日々成長していきたいと思っています。

保育関係者交流セミナー ～教育・保育施設の就職・転職説明会 & トークセッション～

6月19日(火) ひめぎんホール

就職・転職説明会



ブース紹介



トークセッション

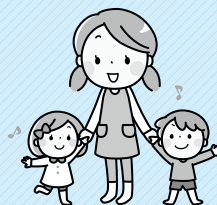


平成25年度から始まった本セミナーも、今年で6回目の開催となりました。

今年度は35ブースが出展し、それぞれに工夫を凝らして情報提供等を行う「就職・転職説明会」と、本セミナーではすっかりお馴染みとなった、やのひろみさんによる「ブース紹介」、新任職員が教育・保育の魅力を伝える「トークセッション」を行いました。

トークセッションでは、「先輩職員から保育者を目指す方へのエール」、「教育・保育のQ&A」と題し、保育の素晴らしさや楽しさを語っていただきました。現場で働く保育者の体験談を熱心に聞いたり、メモを取ったりする参加者の姿が多く見られました。

本セミナーをきっかけに「就職した」、「人材確保ができた」との声も多くいただくようになりました。本会が行う事業の認知が進み、嬉しく思います。保育人材の確保について、会員一丸となって取り組んでいきますので、次年度もぜひ、皆様のご協力をよろしくお願いします。



第63回愛媛県保育事業研修大会

平成30年7月5日(木) 松山市民会館

○式典 児童憲章朗読／全国保育士会倫理綱領朗読／花のおさなご斉唱
黙祷／主催者挨拶／愛媛県保育協議会会長表彰／来賓祝辞

○講演 「乳幼児保育における動物園の役割」

愛媛県立とべ動物園 園長 田村 千明氏

保育事業研修大会に参加して

(新居浜市)垣生保育園

宇都宮 千亜希

講演では、動物園を教育的な場としたなかよし教室・保育士対象動物教室について聞きました。例えば、蛇はザラザラして冷たいという人が多いのですが、実際はサラサラしていることを体験して学びます。他にも、ウサギの心音を聴診したり、牛などの角のヘルメットを着用体験したり、ゾウやキリンのうんちの標本に触れたり、活動は様々です。偏見を持たないで、確かなことを子どもたちに伝えようとする田村先生の熱意から、実物教育の重要性を痛感しました。

この大会に参加して、環境の大切さを改めて感じるとともに、日ごろの保育を見直すことができました。改定された保育所保育指針にも「身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちを持つてかわかることが明記されています。

私たち保育士は、子ども一人ひとりが自然や身近な動植物にかかわり、様々な経験をして生命に関する教育をしていくことが大切であると感じました。

〈参加者の声〉

● 私たちが生き物とのかかわりを知り、伝え、一緒に経験することにより、命の大切さを学び、それが生き物・自分自身を大切にすることにつながるのだと感じました。

● 子どもたちが動物とかわかることによって得ることのできる安心感や気持ちが分かりました。

● 動物園では、児童を対象とした色々な事業や活動があることを知ることができました。



平成30年度 愛媛県保育協議会会長表彰受賞者

No.	支部名	施設名	職名	氏 名
1	四国中央市	中曽根保育園	園長	坂上 徳恵
2	新居浜市	乳児保育所こころ	園長	石川 隆子
3		西保育園	園長	宮崎恵美子
4		新居浜保育園	園長	高橋 文恵
5		垣生保育園	園長	村上 文子
6		若宮保育園	園長	辻本美恵子
7	西条市	新居浜上部のぞみ保育園	園長	星加みどり
8		小松東保育所	所長	横倉 壽子
9		丹原保育所	所長	岡田ひづる
10		東予中央保育所	所長	渡邊みどり
11	今治市・上島町	別宮保育所	所長	古江ヒトミ
12	伊予郡	岡田保育園	園長	喜安 初枝
13	松山市	朝美保育園	園長	岡田 祐子

長年にわたり、本県の保育事業の発展に寄与された13名の方を、第63回愛媛県保育事業研修大会で表彰しました。このたびは誠にありがとうございます。

愛媛大会!

四国ブロック保育研究大会

平成30年7月5日(木)～7月6日(金) 松山市民会館

1日目

- 開会 開会宣言／開会挨拶／来賓祝辞／役員紹介
- 基調報告Ⅰ 全国保育協議会 会長 万田 康氏
- 基調報告Ⅱ 全国保育士会 会長 上村 初美氏
- 記念講演・ライブパフォーマンス
- 「ものまねママ」私の子育てスタイル」

ものまねママタレント みかん氏

記念講演・ライブパフォーマンス

【講師プロフィール】

愛媛県今治市生まれ。高校卒業後に上京・デビュー。芸名は地元の名産品『みかん』から名づける。現在は一児(男の子)の母として日々子育てに奮闘しながら、「ものまねママタレント」として、バラエティーはもちろん、ドラマ出演やお笑いライブのプロデュース等、多方面で活躍している。



【内容】

前半は、みかん氏と愛媛県保育協議会副会長3名によるトークセッションが行われました。みかん氏の子育てスタイル、子育てと仕事の両立での悩み、親戚もいない都会での生活や子育ての苦悩などを、笑いを交えて聞かせていただきました。

後半は、ものまねタレント仲間のJ.P氏も応援に駆けつけ、ライブパフォーマンスが行われました。得意のものまねの披露はもちろん、観客を巻き込み、会場全体を使ったパフォーマンスも行われ、大いに盛り上がりしました。



《参加者の声》

- 何事に対しても前向きな姿勢で取り組み、特に「一番大切にされているのが「挨拶」というところがさすがでした。」
- J.Pさんが、みかんさんの出演中ずっと舞台袖で見学しており、芸を学ぶ姿勢が印象的でした。苦勞しながらも競争の世界である芸能界で活躍できる根本なのだと感動しました。

- 人を笑顔にする仕事は保育と通じるものがあり、大人も子どもも、わくわくする気持ちが持てることは素敵だと思いました。

- 保育とものまねの共通点が「その子(人)」をしっかりと見ることで、特徴・性格等をきちんと把握して、それを伸ばしていくこと」だと気づかせていただき、保育士も子どもも、もっと楽しませていきたいと思いました。

- 講師にみかんさん、ナイスな選択だと思いました!

【2日目】

- 第1分科会 「子どもの育ちを保障する」
- 第2分科会 「子育てライフを支援する」
- 第3分科会 「子育て文化を育む」

地域を巻き込む連携の大切さ

(今治市)富田保育所 山本 朱音

第2分科会における防災についての実践発表は、とても興味深い内容でした。地域を巻き込むことで連携の幅や取組み姿勢も変わっていくと感じ、そのためには何が必要なのか、どのような方法があるのか考えていかなければならないと思いました。大勢の子どもたちを職員だけで守らなければならないと考えるのではなく、様々な立場や知識を持った地域の方々と一緒に守っていったらと思います。また、発表園の防災避難訓練の様子を撮った映像を見ました。訓練の様子をビデオに撮り、客観的に見ることで、反省点・改善点がたくさん出てきたそうです。また、訓練では、大人の本気度が、大切だと助言者からの話もありました。子どもたちの安全確保につなげていける訓練とはどのようなものか、これらの話を参考に保育所での災害時訓練を見直し取り組んでいきたいと思いました。

《参加者の声》

第1分科会

- どの園の先生方も詳しく発表してくださり、とても分かりやすかったです。
- 障がい児の偏食についてスモールステップの大切さはよくわかっていましたが、焦ってしまいがちなので、じっくりその子だけにかかわっていく時間をもう少し設けたいと思いました。
- 「待つ」・「見守る」は大人にとっては難しいが、子どもにとっては何が一番大切な職員間で話し合いたいと思います。

第3分科会

- 自園では、十分でない園内研修や取組みを知り、とても勉強になりました。しっかりと持ち帰り、実践できることから取り組んでいきたいと思っています。

- 忙しい日々の中でも、効率よく職員全員で保育や行事を進めていける工夫を話し合っていたいと思います。

新規事業!

保育士等キャリアアップ研修「①乳児保育」

7月26日(木)～27日(金) ひめぎんホール

- 講義Ⅰ「乳児への適切な関わりと発達に配慮した保育」
- 講義Ⅱ「乳児教育の指導計画、記録及び評価」
- 発表・グループ討議

「子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク」
発表者(伊予市支部)さくら幼児園 保育士 河野 由美
(宇和島市支部)二名保育園 主任保育士 二宮 康子

○講義Ⅲ「乳児の発達と保育」
つといの広場ぐー・ちよき・ぱー 代表 越智 ミドリ氏

○講義Ⅳ・Ⅴ「赤ちゃんから学ぶ子どもの発達①・②」
同志社大学赤ちゃん学研究センター センター長教授 小西 行郎氏

保育士等キャリアアップ研修「①乳児保育」に参加して

(松山市)のぞみ保育園 林 琴美

乳幼児期において一番大切なことは「幸せになりたい人間の最初に起こす欲求」を目覚めさせるということです。まず、生理的欲求(基本的生活習慣)、安全の欲求(物的環境の整備)、安心・愛情の貯え欲求(愛着関係の土台を補強)、それらを目覚めさせ、満たすことにより、今後の子ども心の発達に大きくつながるということを学びました。

また、「愛着形成」によって促進される発達は、基本的信頼、他人を信じる心が育つということ。保護者が愛着形成をうまく作りやすくなるために、私たち保育士が「お手伝い」をするということ。より良い愛着形成が作れるような支援をすることにより、土台を強化していける重要性を考え、子どもと保護者に寄り添い深めていけるようなかわり方をしていきたいと思いました。

また、「自己評価・反省・実践を振り返る」ことにより、日々の保育を向上させ、常に努力を怠らず、より良い保育が行えるように自分自身の基準を上げていき、将来の子どもたちが向上していけるような保育ができるようになりたいと思います。

おすすめの絵本



おなかのなかで



【作・絵】島野 零
【発行】教育画劇

ある日、池のほとりで大きなお魚に飲み込まれてしまったきつねくん。おなかの中で出会ったかもくん、いもむしくんと力を合わせ、小さな穴から外に出ようとします。さて、みんなの運命は…。

にんぎょうの おいしゃさん



【作】マーガレット・
ワイズ・ブラウン
【絵】J. P. ミラー
【訳】こみや ゆう
【発行】PHP研究所

ひげ先生は、人形のお医者さん。けがや病気の人形のもとへすぐに駆けつけ、元気にしてくれます。ところがある日、ひげ先生が寝込んでしまったのです。ひげ先生のために人形たちがとった行動とは…。

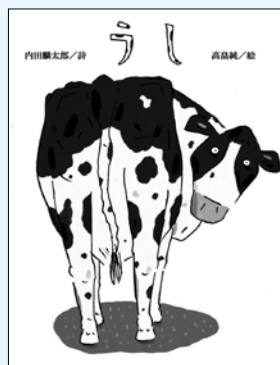
光れ！泥だんご 普通の土でのつくりかた



【作】加用 文男
【絵】門田 律子
【発行】講談社

普通の土でこんなに光る！？今、日本中で話題になっている泥だんごづくり。気が付くと、子どもも大人も中毒に…。みんなをとりこにしよう、不思議な光る泥だんご。

うし



【詩】内田 麟太郎
【絵】高島 純
【発行】アリス館

「うしがいた うしろをふりかえった うしがいた」牛が振り返ると牛がいて、その後ろにも牛がいて、どんどん続いていくと、牛だらけ。そこで牛はひと言、なんといったでしょう？ユーモアの効いた言葉と絵が笑いを誘います。

災害特集(前編)

「被災!その時…どう動けるか」

1年に1度だけ織姫と彦星の願いが叶って、待ち焦がれたその日の朝、私たちの町は百年に1度あるかないかといわれる豪雨と河川の氾濫で、被災地となった。

早朝、必要なものを車に乗せ、園舎から離れて「間もなく」「野村保育所、水没したぞ!」「耳を疑う言葉に」「まさか…」と発するのが精いっぱい。

その後、緑の屋根だけを残した変わり果てた保育所の姿を、映像で確認した。

何が起こったのか、今、何をしたらいいのか頭の中が真っ白になった。

ただひとつの救いが、

『子どもが全員無事だった』こと。

あと一時間、遅かったら…と考えると今でも鳥肌が立つ。

予想もしていない、信じられない大災害が実際に目の前で起こりました。

「もし保育中だったら、果たして私たちは日頃の訓練通りに動けたのだろうか」

今も答えは出ませんが、ただただ、子どもたちに何事もなかったということに感謝です。

被災する1週間前に、河川の氾濫を想定した避難訓練を行ったばかりでした。避難時の行動や連絡方法、引渡し時の仕方等、細かく確認しました。発災当日(7日)は、斜めに襲ってくる雨・風、その上、道路は大人の膝まで迫った水が川のように流れていました。そんな状況の中、子どもたちが歩けるはずがありませんし、歩かせるわけにもいきません。もしも保育士から手が離れたら、考えるだけでも身震いします。きつと訓練通りにはいきません。

しかし私たちは、子どもの命を守るために、一刻も早く安全な場所に避難しなくてはなりません。関係機関との連携、情報収集の重大さは今回、痛感しました。避難指示が出るのを待っている間に合わない場合もあります。避難準備の段階で家庭に連絡をし、安全の確認をした上で、車に乗せて避難をする。子どもの引渡しは避難場所で行う。園で引渡しをするようになると、残った人数確認や迎えを待つ時間が一刻を争うようになります。日頃から持ち出すものは職員間で話し合い、置いてある場所や必要性の確認をしておく…。

次々と、今、しなければならぬこと、準備しておくことが、職員の口から出てきました。水が引いた後、園舎内外の無残な姿を目の当たりにして、いつ起こるか分からない自然災害の恐ろしさ、いつ起こるか分からないからこそ大切な命を守るために、その時どう動くかをいろいろな想定の中で考えていかなければならないと思いました。

現在、野村町地域教育複合施設の2階を使用して保育を再開し、2か月が経ちました。多くの方々、励ましや支援物資の提供等、おかげさまで子どもたちも私たち職員も元気に過ごしております。本当にありがとうございます。まだまだ県内には保育再開の目途が立たず、難儀な思いをされている園もあります。子どもたちの笑顔が少しでも増えるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。

西予市 野村保育所 所長 宇都宮 恵子
(愛媛県保育協議会 副会長)

次号(第42号)では、災害特集後編をお届けします。

全国保育士会 被災地支援スキャンポ募金にご協力をお願いします!

全国保育士会(事務局:社会福祉法人全国社会福祉協議会)では、被災地の保育士会及び保育士等会員を支援し、被災地の子どもの育ちを守ることを目的として、今年度も「全国保育士会 被災地支援スキャンポ募金」を実施しています。

愛媛県保育協議会も、例年、標記募金活動に協力しておりますが、西日本豪雨災害等の発災を受け、その活動を強化することとなりました。

皆様から寄せられた募金は、本会から全国保育士会を通じ、被災地の保育士会に送金され、被災地の保育士等会員を応援することにつながります。

各研修会場(受付)に募金箱を設置しておりますので、ぜひご協力をお願いします!



【お詫び】本機関紙は例年9月頃にお届けしていますが、災害等の影響を受け、本号の発行が遅れましたこととお詫び申し上げます。(次号は3月頃にお届け)